

～ココロをつなぐ。
まちが育つ～

＜北区ボランティア情報誌＞

プラス

1
ワン

3月発行

キラリと輝く

若い力☆スペシャル

ボランティア・地域福祉活動
事例集発行！

説明会



リーダー会議



報告会



調査活動



交流会



北区では、暮らしに悩みを抱えた方の問題に気づき、誰もが住みよいまちになることを願い、住民による活動が活発におこなわれています。そうした「自然で、温かみのある、人と人とのつながり」を大切にされてきた住民による活動を紹介するとともに、住民のみなさんが、「自分にもできるかも!」、「何か活動をはじめたい!」など、活動をはじめていただくきっかけになればという願いをこめて事例集を発行しました。

発行にあたっては、「大学のまち北区」の地域性を活かし、学生にとっての学びの機会、学生が活動につながるきっかけにしたいとの思いから、大谷大学の協力を得て、学生によるインタビュー調査活動をおこないました。学生ならではの気づきや視点による、活動紹介となっております。

身近な地域とともに支えあうことのできる活動のヒントになり、北区の地域福祉活動の充実・発展につながれば幸いです。

* 必要な方は北区社協まで、ご連絡ください。(HPからもダウンロードできます。)

福祉教育プログラムを作成

一昨年、小学校を対象に実施したアンケートでの、「地域とのつながりを大切に取り組んでいきたい」「充実した企画にするためにいろんな組織・団体とつながりたい」という声をもとに、6通りの福祉教育プログラムを作成しました。これらのプログラムは、次世代を担う子どもたちが地域や社会の課題に対し、「気づき」を得て、主体的に「学び」「動く」ことをめざしています。

具体的には、視覚・聴覚・身体障害について理解する内容ははじめ、認知症になっても地域で安心して暮らせるまちづくりについて等、子どもたちを中心に関係者みんなが地域問題を考える内容となっています。

この作成には、障害のある当事者団体や、あらゆる地域・福祉関係者の協力を得ています。

実施にあたっては、学校や地域の現状・想いを話しあいながら、共にプログラム内容を考えて、すすめています。

このページでは今年度実施された、4校11プログラム内容の一部をご紹介します。

障害を理解し、共に生きることを考える

～各当事者団体の協力を得て～

紫明小



紫明小では、「共に生きる」をテーマとして、様々な障害のある方との交流の中で、子どもたち自身、何ができるか考えられる時間をもちたいとの先生の提案からはじまりました。

何度も打ち合わせを重ねて10月から2月末までの期間、区社協の福祉教育プログラムを組み合わせながらの実施となりました。

今回のプログラムでは、4年生43名が、視覚・聴覚・身体と障害のある方からまずお話を聞く時間を設け、その後、3つのグループに分かれて交流しながら、様々な

体験をしました。視覚グループでは、手引きや点字を体験。聴覚グループでは、手話と要約筆記を体験。身体グループでは、車いすを利用する方との学校内の散策をおこないました。

また自分たちの学びだけで終わらせたくない、発信したいとの子どもたちの想いから、最終日は保護者も交えてのポスターセッション発表会。

「なにかお手伝いしましょうか？まずはその一言からはじめよう」との呼びかけに、聞き手の生徒や保護者は深く頷き、理解の輪がひろがりました。

小学校4年生の国語の教科書に「手と心で読む」という教材がありま。その授業の発展学習として、紫野小では、「誰もがかわり合えるように」というテーマのもとで視覚障害の理解を深めました。

実施には、京都府視覚障害協会北支部に協力いただき、まず子どもたちとの交流・体験の時間をもちました。その後、調べ学習をして、参観日で発表するという流れですすめられました。

「便利な道具が増えても一番必要なのは人の

助けだと思えます」と子どもの発表に、「出会いを通じて、子どもたちの心に想いが届いた」と担任の先生は嬉しそうに話されていました。

この取組に協力していただいた視覚に障害のある城野さんからは、「子どもたちに伝えることで親へと伝わり、学びの効果が地域へとひろがっていくというのは本当に嬉しい。障害のあることをネガティブなイメージではなく、正しい理解をもってもらえるよう伝えていきたい」と感想をのべられました。

視覚障害の理解を深める

～視覚障害者協会北支部・京都ライトハウスの協力を得て～

紫野小



身体障害の理解を深める

～車いすツインバスケットボールクラブの協力を得て～



最初は緊張していた様子だった子どもたちも、最後におこなった試合は、大盛り上がり。夢中でパスしたりシュートしたり：またメンバーの方々から日常生活での困りごとや車いす生活についての工夫や努力、ツインバスケットとの出会いとメンバー同士の励ましや絆についての話を聞きました。子どもたちだけでなく、地域の大人も一緒に学ぶ機会となりました。

当日は全校生徒10名の他、保護者、学区社協の役員等が、学校の体育館に集まり、車いすの扱い方や車いすバスケの体験をしました。

中川小では、京都で活躍する車いすツインバスケットチーム「京都サンクロウズ」と共に過ごす時間の中で、身体障害の理解を深めました。

中川小

小学校における福祉教育実践報告

『交流会』開催しています

北区社協では昨年度より、京都市北上・北下支部小学校長会との共催で、福祉教育に関わる先生方との交流会を開催しています。これは多様な組織・団体と連携しながら福祉教育をすすめていく上で、どういう想いでどんな方向性ですすめるのか、どんな実践をしているのか等の意見交換の出来る大事な場となっています。

区社協として、今後もさらに福祉について学ぶ機会をつくり、地域の課題に子どもたちを含めた地域住民がしっかりと目を向け、協働して解決していけるまちづくりをすすめていきます。



1回目(8月)は具体的なプログラムの提案、2回目(2月)は実践報告を中心に意見交換をおこないました。

誰もが住みよいまちづくりについて考える

～学区社協、各当事者団体の協力を得て～



上賀茂小

上賀茂小では「やさしい町上賀茂」をテーマに、様々な障害のある方との出会いを中心に年間を通して取り組まれました。

この取組は「子どもに福祉を伝えたい」という、あつい想いをもつ上賀茂社協の新事業にも位置づけられ、共に授業をすすめるとともに、地域でおこなっている福祉活動の内容を伝える時間も設けられました。

当初、「やさしい町にするにはどうしたらいい？」との問いに「点字ブロックをたくさんつくればいい」「手話をみんなが覚えたらいい」と答えていた子どもたちが、まとめては「道具だけじゃない。何よりも声かけが必要！人と人との関わりを大事にしたい」と変化がみられました。

誰もが住みよいまちにするために子どもも大人も多くの学びや気づきを得られる取組でした。

高めよう北区の地域力

『防災と福祉のまちづくり』フォーラム

北区では、“災害にも強いまちづくり”を目指し、地域の各種団体が、行政や関係機関、大学などと連携・協働しながら、防災・減災に向けた取組をすすめています。

そうしたなか、3月3日(土)佛教大学において、「防災と福祉のまちづくり」をテーマにフォーラムを開催しました。

本フォーラムでは、大宮・待鳳・鳳徳・紫野学区で取り組まれている、防災と福祉に関する取組を報告いただき、災害時において、地域住民による支え合いが大切であることはもちろん、平時からの住民による話し合いや各種団体による連携・協働の取組が大切であることが認識されました。また、記念講演では、熊本県水俣市の地域福祉活動の実践を報告いただきました。

今後も、みなさまとともに地域の状況にあわせた「防災と福祉のまちづくり」をすすめていきます。



大宮

待鳳

＜子ども防災EXPOの開催＞

鳳徳



紫野

＜一人暮らし高齢者の組織化支援＞



＜減災に関する組織の発足とマニュアル作成＞



＜大宮ほっとかへんで運動の推進＞

36人の利用者さんを

17人で支えています

日常生活自立支援事業は、ひとりで判断するのが不安な方(高齢の方、精神や知的に障害のある方など)に、住みなれた地域で安心して暮らしていただくための事業です(福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理、郵便物管理などをおこないます)。

北区社協では、この事業の利用者の方を支援する「生活支援員」を随時募集しています。興味・関心のある方は、下記までお問い合わせください。

あなたの力が必要です。

日常生活自立支援事業

生活支援員 募集中!

京都市北区社会福祉協議会

北区ボランティアセンター

〒603-8143

京都市北区小山上総町3

TEL:075-441-1900 FAX:075-441-8941

E-mail:info@kitaku-syakyo-kyoto.jp



ココロをつなぐ。まちが育つ。

